

2004 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 26 日作成)

委員会名	鋼構造接合小委員会	主 査 名：中島正愛
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>本小委員会は下記の項目に関する調査研究を展開する。</p> <p>(1) 2001 年に発刊した「鋼構造接合部設計指針」内容の再吟味と改定点の抽出</p> <p>(2) 透明性の高い接合部設計を実現するための問題点の同定</p> <p>(3) 上記 2 項目を将来の指針改定に昇華させるための調査研究の実施</p> <p>(4) 構造設計のグローバル化に適合しうる接合部設計のあり方の検討</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：中島正愛(京都大学)</p> <p>幹事：寺田岳彦(清水建設)</p> <p>委員：矢部喜堂(清水建設)・宇野暢芳(新日本製鐵)・小川厚治(熊本大学)・吹田啓一郎(京都大学)・杉本浩一(大林組)・多賀謙蔵(日建設計)・田中 剛(神戸大学)・田沼吉伸(北海道工業大学)・中込忠男(信州大学)・増田浩志(宇都宮大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	該当なし	
2004 年度予算	680,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会の活動 - 計 6 回の開催(2004 年 5 月 26 日・10 名、7 月 26 日・10 名、9 月 13 日・11 名、11 月 20 日・10 名、2005 年 1 月 22 日・9 名、3 月 30 日・8 名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>鋼構造接合部設計指針改定成案を 2005 年 3 月 30 日に脱稿した。2001 年版接合部設計指針に対する改正点は下記の通りである。(1)局所ちぎれ破断耐力の解説充実；(2)斜方隅肉溶接継目の解説充実；(3)接合部係数の再吟味；(4)柱継手高力ボルト接合例題追加；(5)円形鋼管柱接合部の解説充実；(6)外ダイアフラム形式設計の追加；(7)破断防止設計の解説充実；(8)接合部パネル設計例題追加；(9)圧縮ブレース接合部がセットプレート設計例題追加；(10)露出型柱脚例題追加；(11)リブ付きベースプレート柱脚の解説充実；(12)埋込み柱脚接合部係数の解説充実。これらはすべて鋼構造接合部設計指針 2005 年度版に反映される予定である。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/aij_connect/</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>鋼構造接合部設計指針改正成案を 2005 年に脱稿することによって、上記設置目的に掲げたミッションのうち(1)～(3)を達成できた。今後構造委員会査読等を経て、2005 年末までには、鋼構造接合部設計指針 2005 年度版として出版、また 3 月初旬に全国 3 ヶ所で講習会を開催する予定である。</p>
その他評価すべき事項	2002～2003 年度に活動した外国関連規準評価検討 WG の最終成果を、7 編の論文群として鋼構造論文集 2005 年 3 月号に一括掲載した。上記設置目的に掲げたミッションの(4)に対する公表成果である。